



### 3 朝顔狗子図 山口素絢 一幅

絹本着色

寛政四年（一七九二）

本紙三七・五×五七・八

山口素絢（一七五九～一八一八）は、応挙の十哲に数えられ、花鳥図や美人図で知られる。この図に見るようなころころとした愛らしい子犬の描写は、応挙が得意としたものである。応挙五十二歳の制作になる旧明眼院の杉戸（天明四年、東京国立博物館所蔵）にも、本図と同様に、朝顔を背景に子犬が戯れる図がある。朝顔の咲く野原の一面、様々なポーズで戯れる子犬の姿は、とにかく微笑ましい。墨と淡彩で描かれた子犬や叢に対し、写実的にしっかりとした彩色で描かれた朝顔が画面を引き締め、装飾性を加えている。子犬の輪郭線を薄墨でさつとくくり、柔らかくふんわりした体毛の様子を胡粉や薄墨で質感豊かに表した本図は、落款より、素絢三十三歳の作と知られ、応挙の画風を忠実に学んでいる早い時期の作品と推察される。子犬は多産の象徴として描かれる場合も多く、本図も単なる花鳥図ではなく、縁起物、あるいは祝儀的な意味を持っているかもしれない。こうした愛らしい子犬の図様は、応挙の後も円山派の図様として近代まで継承され、工芸品の意匠にも取り入れられている。明治期に宮殿装飾用の絵画として購入された品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

描き継ぐ日本美 — 円山派の伝統と発展

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 59

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年九月十五日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections